



園田中だより

さとく・
うつくしく・
たくましく

No. 16

尼崎市立園田中学校
TEL 06-6491-0775
平成 30 年 12 月 13 日
(文責 澤嶋 伸)

園田中学校ホームページ : <http://www.ama-net.ed.jp/school/j20/>

1948年12月10日、国際連合第3回総会において「世界人権宣言」が採択されて今年で70周年を迎えます。この日を記念して、毎年12月4日から10日までを「人権習慣」と定め「世界人権宣言」にもられた思想の普及、発展のための諸行事が開かれています。

第38回全国中学生人権作文コンテスト尼崎大会で、最優秀賞に選ばれた3年6組 辻合 黎くんの作文を紹介します。
この機会に、中学生のみんなには人権問題について考えてほしいと思います。

「同感と共感」

「LGBTは生産性がない。」

今年の夏休みに入って間もないころ、ニュースで取り上げられていた一部である。僕は、このニュースを見るまでLGBTという言葉を知らなかった。一緒にニュースを見ていた母に「LGBTって何？」と、尋ねたことでその意味を理解することが出来た。L=レズビアン、G=ゲイ、B=バイセクシャル、T=トランジェスター、一つ一つの意味を聞くと、知っている言葉もあった。僕の身近なところには、LGBTを公表している友達や知人はいないが、テレビを見ていると、LGBTと公表している芸能人をよく見かけるし、その人達に対して偏見などを持ったことはない。そのニュースは、ある国会議員が「LGBTには、生産性がないのに支援の度が過ぎる。」と発言した内容のものだった。「生産性がない。」とはどういう意味なのだろう。僕は最初、LGBTの人達は偏見の目で見られることが多い為、仕事に就きにくく、所得が低い=生産性がない、ということかと思った。しかし、内容は全く違った。LGBTの人達の間には「子ども」が生まれず、ということが「生産性がない。」ということだった。僕は正直、ちょっと嫌な気持ちになった。なぜなら、僕自身を含めた、人類全てが生産された「もの」と言われているように感じたからだ。

そもそも、この人が言う「生産性」=「出産」が出来ない人は、LGBTの人達だけではないと思う。色々な事情を抱えた人や、病気などで、子どもが欲しくても出来ない人、つくらない人もいると思う。LGBTの人達だって、本当は、子どもが欲しいと思っている人達

もたくさんいると思う。それなのに、LGBTの人達だけを取り上げて、更に出産することを「生産」と表現することが、中三の僕でさえ、とてもおかしいと思った。

今から何年前だったかは忘れたが、僕が小学生の頃、ある芸能人が性別は男なのに、女性の格好をしてテレビに出演している番組を家族で見ている。ふと、母が僕たちに質問してきた。

「ねえ、同じ性別の子を好きになったことある？」と。まだ、小学生だった僕は「変なこと聞いてくるなあ」としか思っていなかった。その時の会話の続きはこうだった。

「もしかすると、自分と同じ性別の子を、好きになることがあるかもしれない。もしかすると、今の自分と違う性別になりたいと思うことがあるかもしれない。もしかするとの話だけど、そういうことがあったとしても、母さんはいいと思う。」という感じの内容だった。今回のニュースを見てその数年前の会話を思い出しつつ、改めて母と人権について話し合った。

僕の母は、ここ5年ほど、月1回位の人権学習に参加している。学習会の日の夕食では「今日はこういう話を聞いてきたよ。」と話題になることが度々あり、人権についての会話は、僕らにとって特別なものではなかった。海外では、すでに同性婚を認めている国もある。しかし、その反対に同性愛が犯罪になる国もある。国によってこんなに違いがあることに、僕はとても驚いた。さすがに死刑という重罪に値するとは思ってもよらなかったからである。では、日本ではどうなのだろうか？ ネットで検索してみると、色々な取り組みをしている企業があった。LGBT当事者ではないが、理解し活動を支援する立場の「アライ」を増やそうとしている企業、各フロアにどちらの性別でも使えるトイレを設置している企業、ホルモン治療や性適合手術の為に、有給を積み立てて使える制度を設けた企業。調べてみると、数は少ないが、色々な取り組みをしている企業があることもわかった。これから、どんどんLGBTについても理解し、協力してくれる企業が増えるといいなあと思った。そして、社会全体に正しい知識を、拡散してくれれば、もっとLGBTの人が住みやすい社会になるのではないかと思う。

「人権」って言葉だけ聞くと、とても難しく考えるかも知れないが、決してそうではない。むしろ人権は、身近なものであり、みんなにとって大切なものだと思う。人権で大切なことは「相手の気持ちを考える。」ことではないかと僕は思う。何にでも「私も同じ気持ちです。」と同感することは無理だが「あなたの気持ち、わかりますよ。」と、共感することは出来るのではないかと思う。共感することも、決して簡単に出来ることではない。だが僕は、少しでも人に寄り添える、共感出来る人間になりたいと思っている。